

## 日本甲虫学会第6回大会報告

日本甲虫学会第6回大会は、日本昆虫分類学会第18回大会との合同大会として、2015年11月21日（土）から22日（日）の日程で、北九州市立自然史・歴史博物館を会場として開催され、116名の参加があった。開催にあたっては、以下の団体にご支援・ご協力いただいた。

共催：北九州市立自然史・歴史博物館

協賛：公益財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

1日目は、評議員会、総会の後、学会賞授与式が行われ、次の方々が表彰された。

論文賞：林成多会員・吉富博之会員

功労賞：林靖彦会員

奨励賞：山本周平会員

授賞式に引き続き、林成多会員による論文賞受賞記念講演がおこなわれた。

今大会のシンポジウムは、荒谷邦雄氏をコーディネーター（兼パネラー）として、「生物多様性条約と昆虫研究：名古屋議定書・ABS問題」と題して一般公開で開催された。今後、国際的な昆虫研究を行うに当たり避けて通れない生物多様性条約の詳細な解説と現場での実務について、以下の4名のパネラーに発表していただいた。

荒谷邦雄氏：生物多様性条約を理解する

森岡一氏：名古屋議定書・ABS問題の理解のために

三田敏治氏：名古屋議定書への取り組み：大学と学会の現場から

斉藤明子氏：名古屋議定書への取り組み：博物館の現場から～大き過ぎる課題～

懇親会は大谷会館に場所を移して開催した。野村周平会長の挨拶と森本桂名誉会員の乾杯に始まり、飲食・歓談を共にして親交を深めた。終盤には、次年度大会事務局の初宿成彦会員より、来年の大阪大会開催に向けて案内があった。

2日目は、開館直後から同定会とポスター発表（4件）が開催された。同定会は大勢の会員諸氏にご協力をいただき、会場は人と標本で賑やかになった。その後、一般講演（11題）と6つの分科会（雑甲虫、ゴミムシ、ゾウムシ、カミキリ、ハネカクシ、水生甲虫）を行った。今回、分科会は3つずつ、2回に分けて行った。普段参加できない他の小集会にも参加できる反面、分科会と分科会の間の時間が10分と短くなってしまったが、分科会世話人および参加者のご協力により、大きな時間のロスもなく無事終わることができた。

共催・協賛団体の皆様には開催まで様々な形で事務局をサポートしていただいた。シンポジウム開催に当たりご尽力いただいた荒谷邦雄氏をはじめとして、多くの方々のご協力により本大会を開催することができた。そして、全国からご参加いただき、会を盛大に盛り上げてくださった会員の皆様に心よりお礼を申し上げる。

（大会事務局 蓑島悠介）